2022年7月24日
JDDnet 福井
令和 4 年度 オンラインシンポジウム

障害特性に関する自己理解を進めるには

福井大学教育学部
藤岡徹

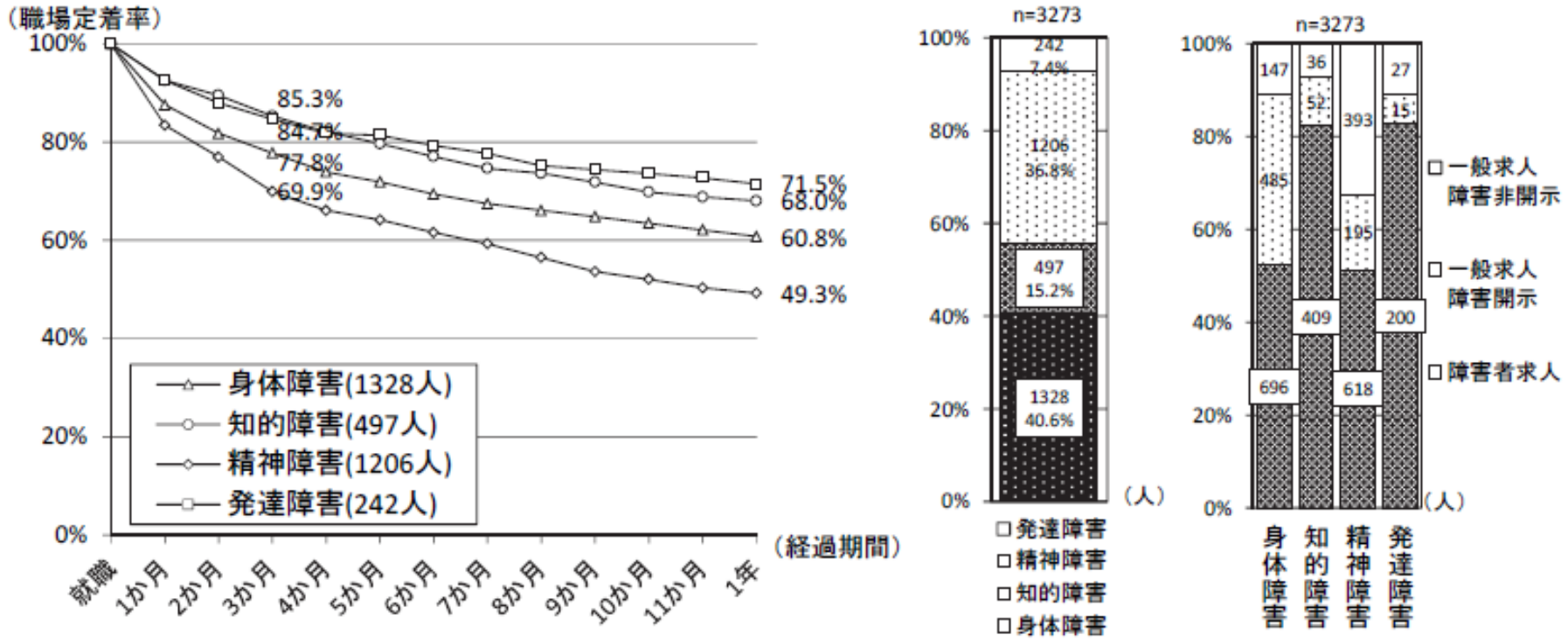
障害者の就業状況等に関する調査研究

２　調査研究の方法

（1）公共職業安定所における障害者の紹介就職・職場定着の実態調査

2015 年 7 月 1 日から 8 月 31 日の 2 か月の間に、全国で 134 所の公共職業安定所の専門援助部門（障害者窓口）の紹介により就職した者であって、主たる障害が身体障害、知的障害、精神障害、発達障害のある者を対象とした。なお、調査項目について公共職業安定所が調査票に入力することにより回答を得た。

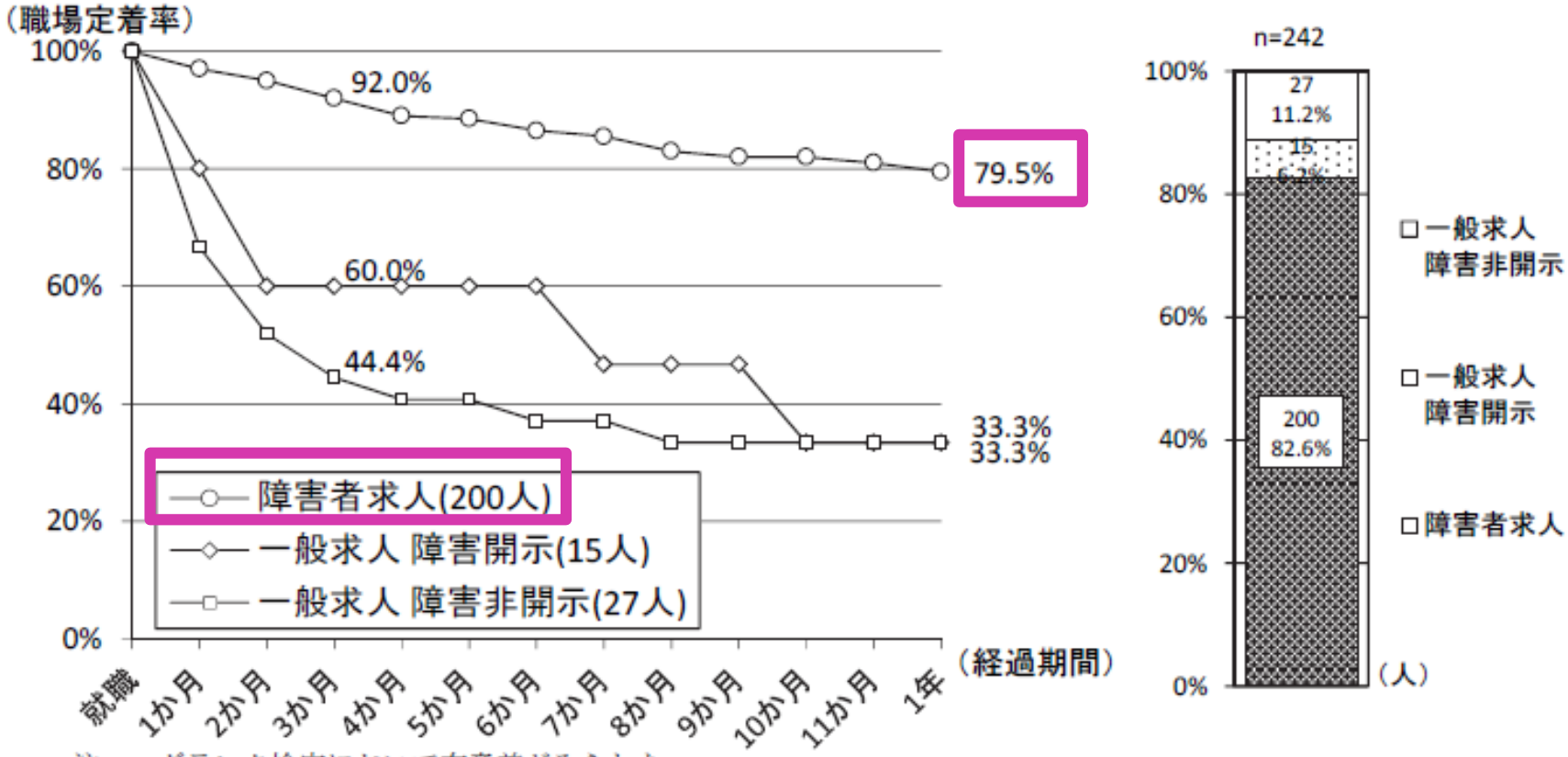
障害者職業総合センター（2017）『障害者の就業状況 等に関する調査研究（調査研究報告書 No.137）



図表１－３－２　障害別にみた職場定着率の推移と構成割合

- 発達障害のみを対象にした分析の結果、障害者求人の定着率は、一般求人（開示/非開示含む）の定着率よりも高かった

障害者職業総合センター（2017）『障害者の就業状況 等に関する調査研究（調査研究報告書 No.137）



注：ログランク検定において有意差がみられた。

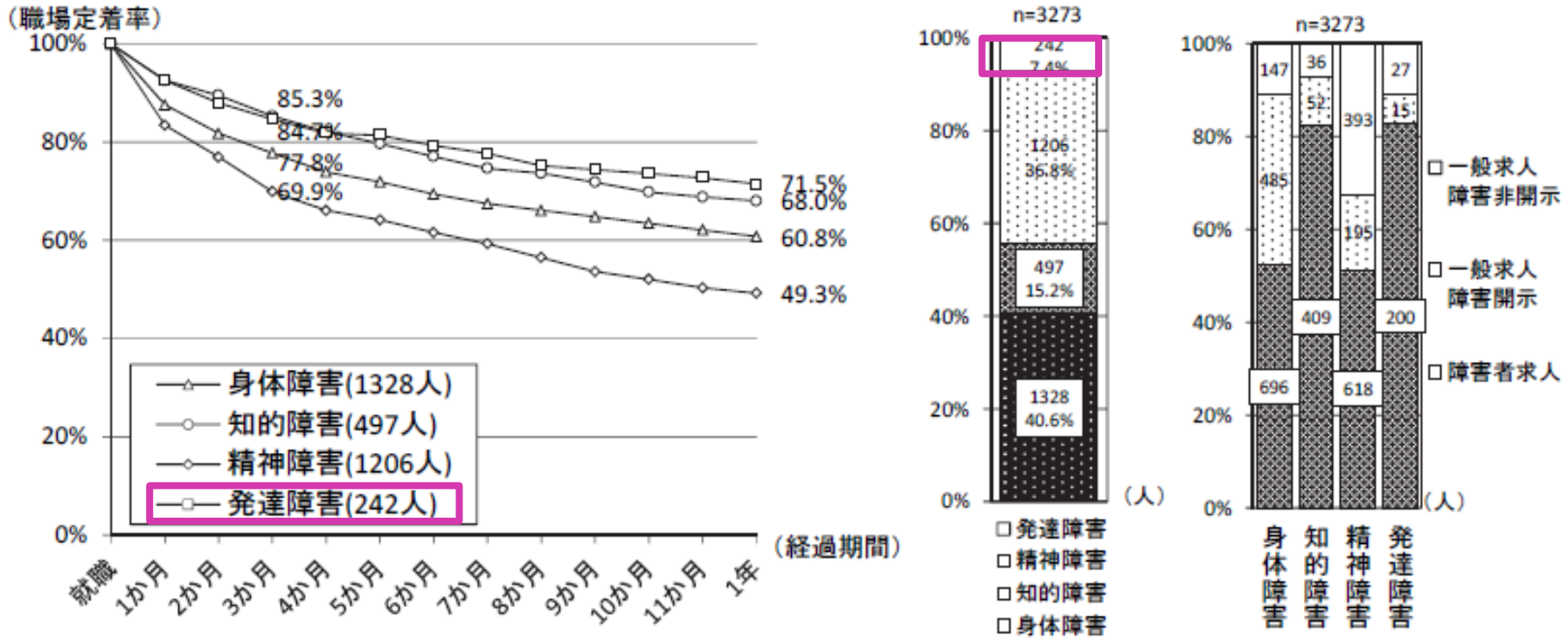
図表１－９－１　求人種類別にみた発達障害者の職場定着率の推移と構成割合

障害者職業総合センター（2017）『障害者の就業状況 等に関する調査研究（調査研究報告書 No.137）

ここまでの結果から推測すると

- 発達障害のある方は、支援・合理的配慮がなされると就労も長続きする傾向にある

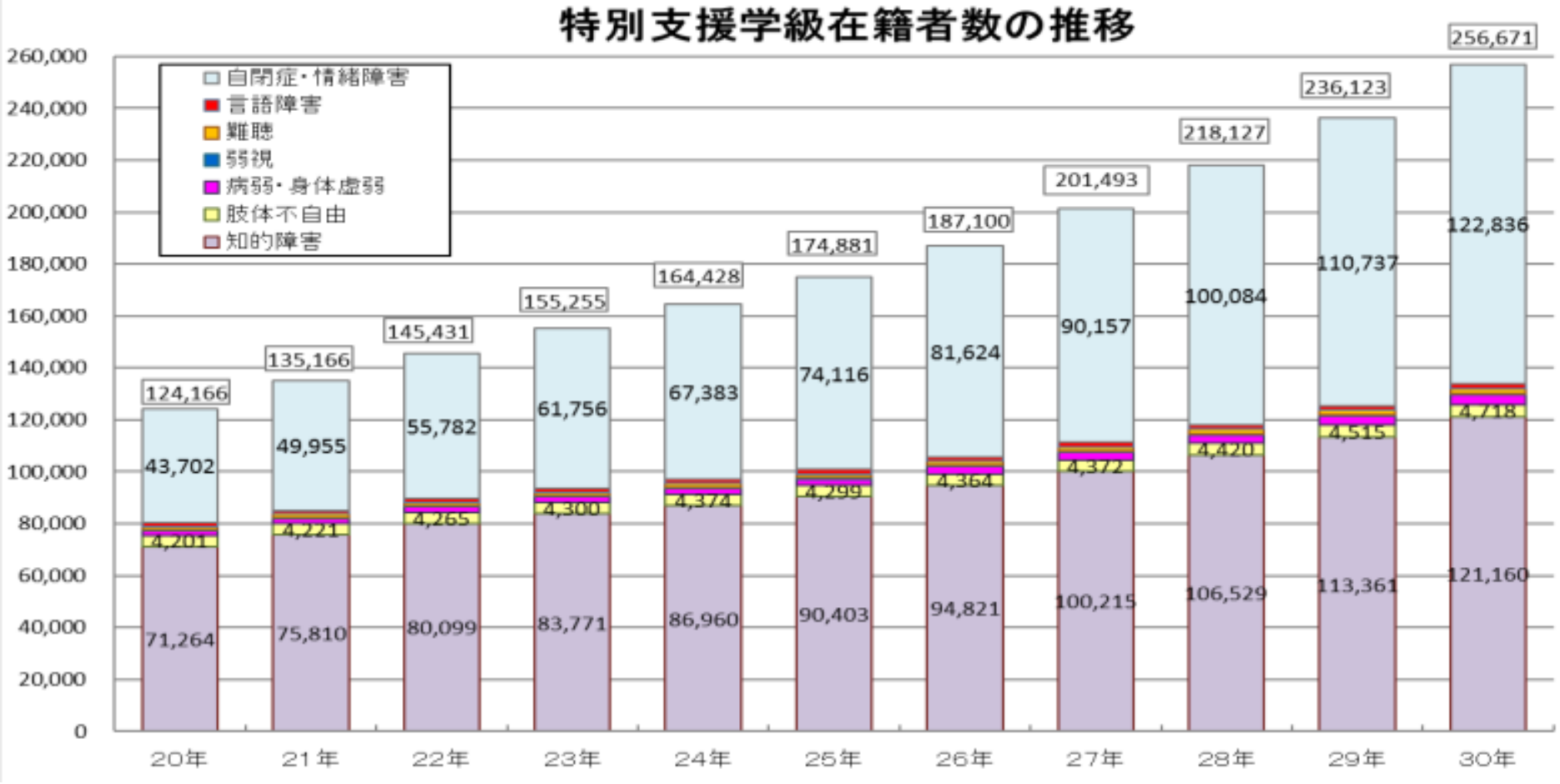
（就労期間は長ければいい、というような単純なものではないが）



図表１－３－２　障害別にみた職場定着率の推移と構成割合

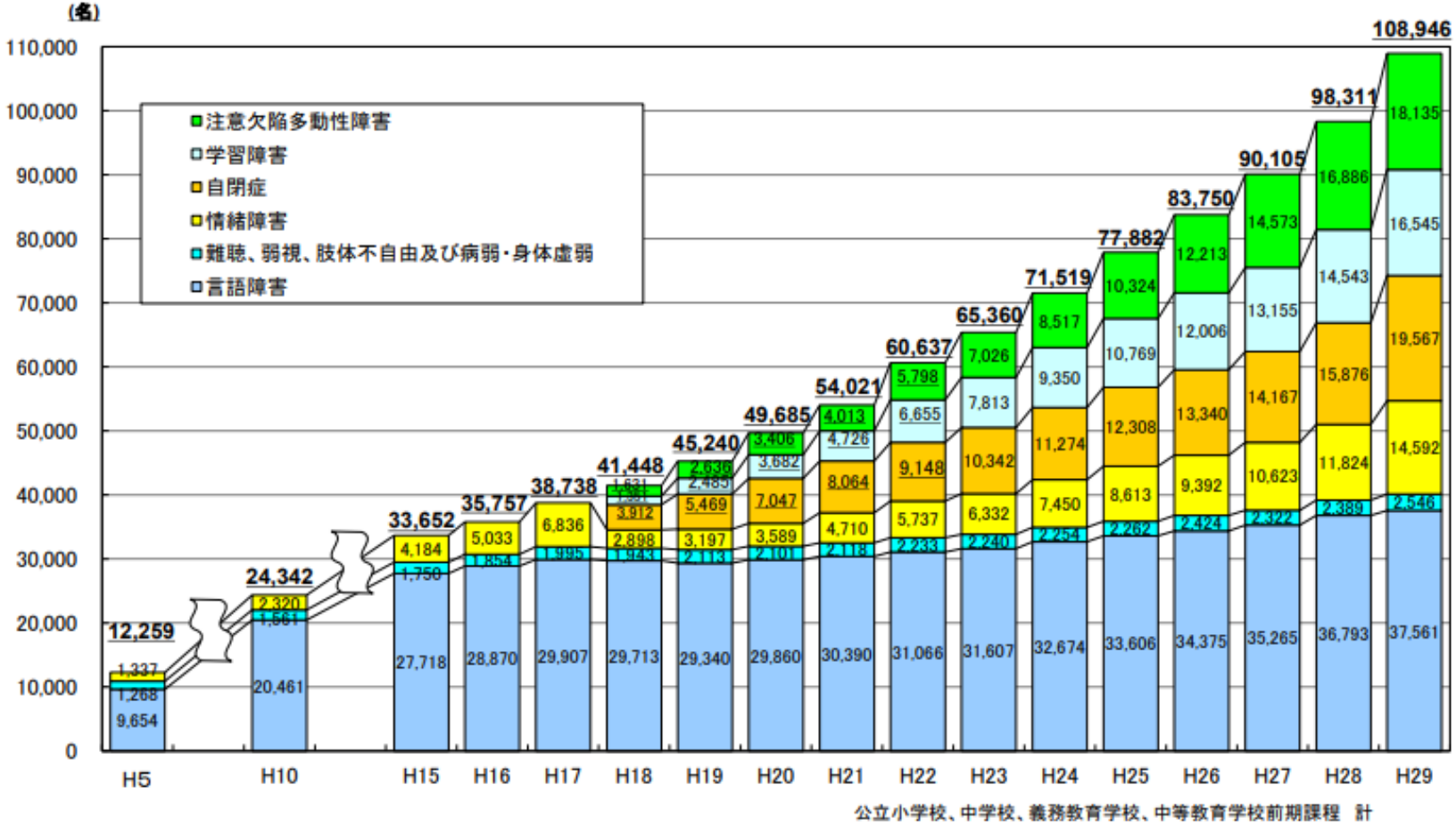
- 発達障害は、全体の7.4%であった

障害者職業総合センター（2017）『障害者の就業状況 等に関する調査研究（調査研究報告書 No.137）

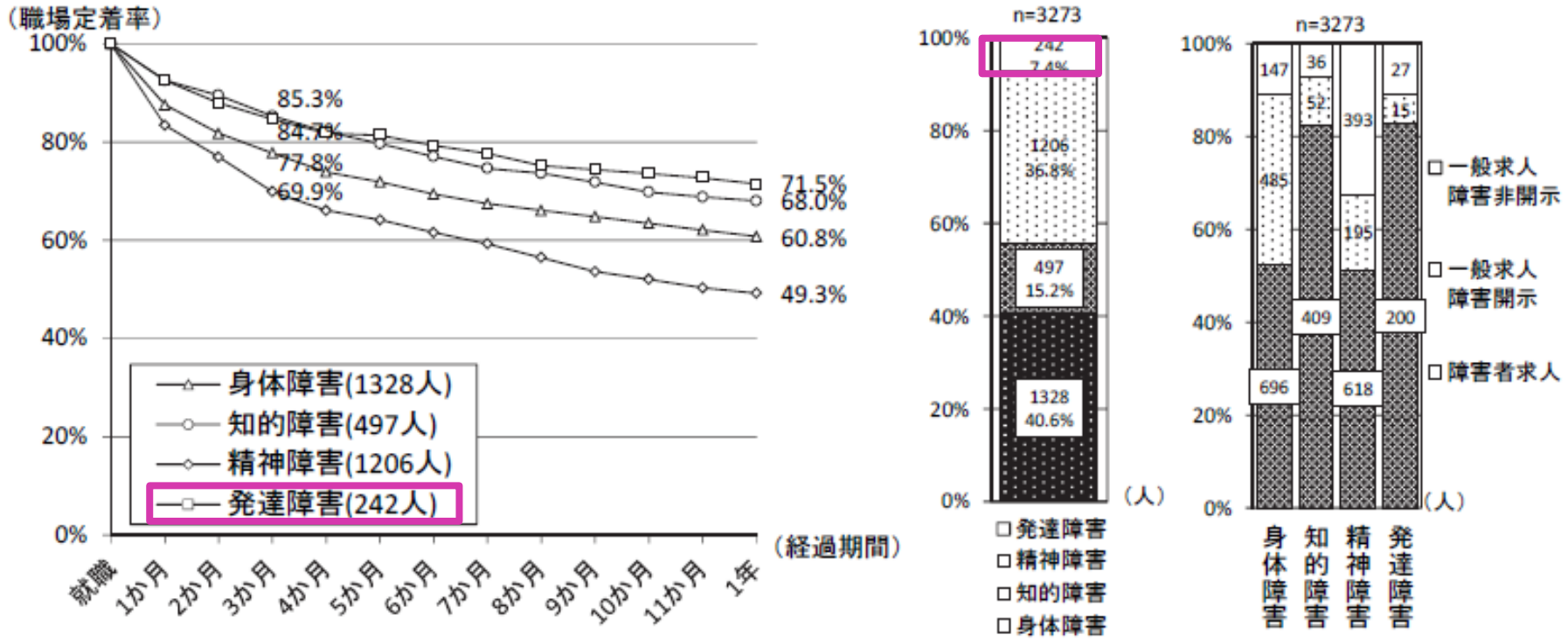


文部科学省（2019）日本の特別支援教育の状況について　より転載

通級による指導を受けている児童生徒数の推移



文部科学省（2019）日本の特別支援教育の状況について　より転載

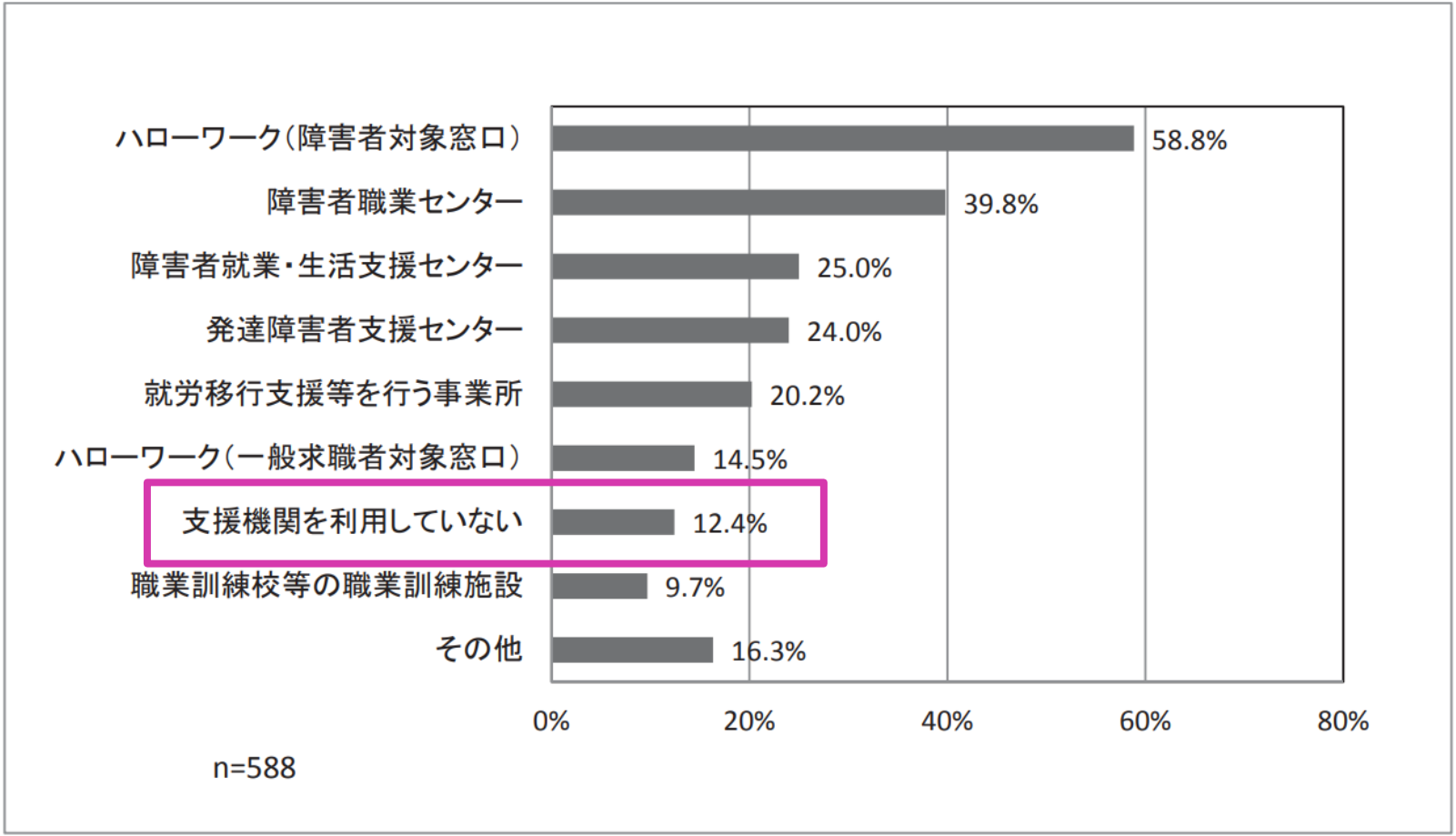


図表１－３－２　障害別にみた職場定着率の推移と構成割合

- 発達障害は、全体の7.4%であった

障害者職業総合センター（2017）『障害者の就業状況 等に関する調査研究（調査研究報告書 No.137）

図表 3－37　就職する際に利用した支援機関（複数回答）



障害者職業総合センター（2015）『発達障害者の職業生活への満足度と職場の実態に関する調査研究（調査研究報告書 No.135）

ここまでの結果から推測すると

- 発達障害のある方は、支援・合理的配慮がなされると就労も長続きする傾向にある

  （就労期間は長ければいい、というような単純なものではないが）

- 特別支援の対象になっている児童生徒数から考えると、調査対象になった人数が少ない

  →支援が有効なのに、支援につながっていない可能性？？

図表１－７－32　求人種類別の１年未満に離職した発達障害者の具体的な離職理由[注]

		人数	障害・病気のため	労働条件があわない	業務遂行上の課題あり	人間関係職場以外の悪化	職場以外の要因	労働意欲に課題あり	キャリアアップのため	基本的労働習慣に課題あり	将来への不安	その他の理由	不明
未満 3か月	障害者求人	16	6.3%	12.5%	25.0%	12.5%	6.3%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%	37.5%
	一般求人障害開示	6	16.7%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
	一般求人障害非開示	15	26.7%	6.7%	0.0%	13.3%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	20.0%
	合計	37	16.2%	10.8%	18.9%	10.8%	8.1%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	24.3%	24.3%
1年未満 3か月以降	障害者求人	25	20.0%	12.0%	12.0%	16.0%	0.0%	0.0%	8.0%	0.0%	0.0%	12.0%	28.0%
	一般求人障害開示	4	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	一般求人障害非開示	3	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	合計	32	18.8%	9.4%	15.6%	12.5%	0.0%	6.3%	9.4%	0.0%	0.0%	12.5%	21.9%

注：離職者の具体的な離職理由を確認した結果であるため、雇用保険上の離職理由において「会社都合、契約期間満了」はその他として、「不明」の場合は不明として計上している。

障害者職業総合センター（2017）『障害者の就業状況 等に関する調査研究（調査研究報告書 No.137）

離職理由の分類	具体的な状況の例
障害・病気のため	障害や症状の悪化（再発、病気やケガのため、体調不良）
業務遂行上の課題あり	体力的にきつい、作業環境（音やにおい）が合わない、緊張感が強い、仕事が覚えられない、業務上の意思疎通が難しい（指示が理解できない、自分から話せない等）、作業能率が要求水準に達しない、作業品質が要求水準に達しない、遅刻や欠勤が多い
基本的労働習慣に課題あり	遅刻、欠勤、早退が多い、職場のルールが守れない、清潔な身なりを保てない、電話連絡等の不徹底
労働意欲に課題あり	仕事が合わない（自分に向かない）、仕事が面白くない、労働意欲の低下、自信がない
労働条件があわない	賃金が低い、残業が多い、労働時間が長い、労働条件が違っていた、または変化した、仕事内容が違っていた、または変化した
人間関係の悪化	職場の評価が低い、経営理念・社風が合わない、職場の雰囲気が合わない、冷たい、監視されている、無視されている等、職場の人間関係（話せる人

		人数	障害・病気のため	労働条件があわない	業務遂行上の課題あり	人間関係職場以外の悪化	の要因	労働意欲に課題あり
未満 3か月	障害者求人	16	6.3%	12.5%	25.0%	12.5%	6.3%	6.3%
	一般求人障害開示	6	16.7%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	一般求人障害非開示	15	26.7%	6.7%	0.0%	13.3%	13.3%	0.0%
	合計	37	16.2%	10.8%	18.9%	10.8%	8.1%	2.7%
1年未満 3か月以降	障害者求人	25	20.0%	12.0%	12.0%	16.0%	0.0%	0.0%
	一般求人障害開示	4	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	一般求人障害非開示	3	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%
	合計	32	18.8%	9.4%	15.6%	12.5%	0.0%	6.3%

障害者職業総合センター（2017）『障害者の就業状況 等に関する調査研究（調査研究報告書 No.137）

ここまでの結果から推測すると

- 発達障害のある方は、支援・合理的配慮がなされると就労も長続きする傾向にある

  （就労期間は長ければいい、というような単純なものではないが）

- 特別支援の対象になっている児童生徒数から考えると、調査対象になった人数が少ない

  →支援が有効なのに、支援につながっていない可能性？？

- 就労（特に継続に）自己理解は重要なポイントではありそう

そもそも自己理解とは

- 幼児期

名前、年齢、自分の所属、外見的な事柄（髪が長い、等）

- 児童期

内面的理解が深まる

- 青年期

主観的、内面的でより深い自己理解

→ 他者との関わり・比較の中で深化していく

→ ASD児者は適応的な行動に対して、正確な自己認識が難しいという結果も得られている（Barnhill et al., 2000）

別府聡（監修）（2014）発達障害・知的障害のある児童生徒の豊かな自己理解をはぐくむキャリア教育　ジーニアス教育社
Barnhill et al. (2000). Parent, teacher, and self-report of problem and adaptive behaviors in children and adolescents with Asperger syndrome. *Assess. Eff. Interv.* 25, 147–167

発達障害の自己理解と就労

- ASD者において、職業における満足度と幸福度（well-being）は関連がありそうとされている（Hedley et al. 2019）
- 本人の特性やニーズに合った適切なジョブマッチングがなされていない（梅永, 2015）
- 自己理解が深まっていないと、成人期以後の支援要請につながらない（山田, 2015）

→自己理解は大切

Hedley et al(2019). Predictors of mental health and well-being in employed adults with autism spectrum disorder at 12-month follow-up. Autism Res.12(3):482-494.
梅永雄二（2015）発達障害のある人の就労支援. 金子書房
山田 宗寛(2015)大学卒業後も大切となる発達支援と自己理解：成人期の支援事例を通して． 障害者問題43（2）121-126

- では、実際はどのようなことが行われているのでしょうか？？

自己理解の現場で①

自己理解の現場で②

まとめ

- 就労支援につながっていない発達障害のある生徒は、一定数存在することが示唆される
- 自己理解を深め、自分の希望と特性にマッチした職業を選択することが幸福度を上げるため、就労支援につながっていない学生への自己理解はとても重要
- 社会的な受容は自己を肯定的にとらえることやメンタルヘルスに影響を与える（Viecili et al., 2010; Weiss et al., 2003）など要因は複雑ではあるので、それらを整えることも重要であろう

Viecili et al. (2010). Brief report: the relationship between social acceptance, problem behaviors, and social skills as perceived by youth with autism spectrum disorders. *J. Dev. Disabil.* 16, 72–75.
Weiss et al (2003). Involvement in special oplympics and its relations to self-concept and actual competency in participants with developmental disabilities. *Res. Dev. Disabil.* 24, 281–305.